





既感染者への新型コロナワクチン接種に関する諸外国の対応状況(1/2)





資料3

既感染者に対する追加接種に関して、米国、カナダは感染後にも追加接種を推奨し、フランス、ドイツは感染後3か月以上経過後に追加接種可能としている。英国、イスラエルは初回シリーズ・追加接種を区別せず、感染後も接種し得るとしている。

国/機関	基本方針の 発出機関	既感染者に対する新型コロナワクチン接種に関する基本方針 (2月1日現在)	基本方針の論拠 (例示的)
 米国	CDC	<ul style="list-style-type: none"> 初回シリーズ及び追加接種：既感染者に対しても、症状が収まり、隔離の条件が満たされた場合において、接種を推奨。なお、感染とワクチン接種の最適な間隔について方針を発出するにはエビデンスが不十分である 	<ul style="list-style-type: none"> 以下に関してエビデンスが存在する <ul style="list-style-type: none"> 既感染者にもワクチンを安全に接種できる 既感染者の再感染リスクは低い、免疫が経時的に減衰し、リスクが上昇する可能性がある 既感染者に対する接種により、免疫反応が上昇し、変異株に対しても再感染リスクを更に下げる
 英国	UKHSA	<ul style="list-style-type: none"> 既感染者はワクチンを接種し得る。感染した者は発症から4週間以上経過後まで、無症状の場合は最初に陽性が確認されてから4週間以上経過後までは、ワクチンの接種を延期すべき（初回シリーズ・追加接種の区別なし） 	<ul style="list-style-type: none"> 現段階で既感染者に対するワクチン接種による安全性への懸念がない 自然感染により得られた抗体の持続期間とワクチン接種を通じてより強固な予防効果が得られるか明らかではない
 カナダ	NACI	<ul style="list-style-type: none"> 初回シリーズ及び追加接種：既感染者も接種をすべき。接種会場での感染を防ぐため、接種者は、急性症状が完全に消失し、感染させるおそれがないことを接種前に確認するべき 	<ul style="list-style-type: none"> 既感染者への予防接種は、自然感染のみと比べてより強力で長期間持続する予防効果が期待できる 既感染者に対する2回目接種の副反応は、初回接種と同様か、それより少ない
 フランス	保健省	<ul style="list-style-type: none"> 初回シリーズ：既感染者も症状が収まってから2か月以上経過後にワクチンを1回接種し得るが、2回目接種の要否は医師との面談を基に判断される。1回目接種が完了し、PCRまたは抗原検査による陽性確認がみられた者は、2回目接種まで2-6か月空けるべき 追加接種：初回シリーズ接種後に感染した場合、感染から3か月以上経過後接種可能 	<ul style="list-style-type: none"> （初回シリーズについて）特にデルタ株やオミクロン株に対して、ワクチンによる免疫は接種完了後数か月で減衰する傾向がある

既感染者への新型コロナワクチン接種に関する諸外国の対応状況(2/2)

既感染者に対する追加接種に関して、米国、カナダは感染後にも追加接種を推奨し、フランス、ドイツは感染後3か月以上経過後に追加接種可能としている。英国、イスラエルは初回シリーズ・追加接種を区別せず、感染後も接種し得るとしている。

国/機関	基本方針の発出機関	既感染者に対する新型コロナワクチン接種に関する基本方針 (2月1日現在)	基本方針の論拠（例示的）
 ドイツ	保健省	<ul style="list-style-type: none"> 初回シリーズ： <ul style="list-style-type: none"> 既感染者に対して、初回シリーズとしてのワクチン接種は1回で十分である 既感染者のうち、有症状の者は症状が収まってから4週間以上経過後に1回のワクチン接種を、無症状の者は陽性が確認されてから4週間以上経過後に1回のワクチンを初回シリーズとして接種し得る 追加接種： <ul style="list-style-type: none"> 接種回数にかかわらず、ワクチン接種後に感染した者は、感染3か月以上経過後に追加接種可能 1回目接種前に感染し、その後ワクチンを接種した者は、前回の接種から3か月以上経過後に追加接種可能 	<ul style="list-style-type: none"> 感染後数か月の再感染リスクは低い、時間経過と共にリスクが上昇する可能性がある
 イスラエル	保健省	<ul style="list-style-type: none"> 既感染者は、回復後又は血清学的検査陽性から3か月以上経過後から接種し得る（初回シリーズ・追加接種の区別なし） 	<ul style="list-style-type: none"> （記載なし）
 国連	WHO	<ul style="list-style-type: none"> 初回シリーズ：既感染者もワクチン接種を受け6か月以上経過後まで遅らせるべき。既感染者は検査による陽性確認から接種を遅らせることも考えられる （追加接種に関しては、記載なし） 	<ul style="list-style-type: none"> 感染による予防効果は人によって大きく異なる 自然感染後にワクチン接種で得られる免疫は一貫してとても強力である 感染後にワクチンを接種することで、より長期間に効果を期待できる
 EU	ECDC	<ul style="list-style-type: none"> 初回シリーズ：既感染者に対してもワクチン2回接種を推奨 （追加接種に関しては、記載なし） 	<ul style="list-style-type: none"> 再感染はまれではあるものの発生する 感染後自然免疫がいつまで持続するのかが明らかではなく、感染後6か月以降について結論を出すことができない